

ピアホームだより

2019. 4.10

新年度(31年度)スタート

3月23日、今年度最後の理事会を開催し、31年度の予算・事業計画を決めました。運営の世代交代を迫られる中、大きな岐路に立っているのです。3月に今後の方向性を示しました。ピアホーム関連部分を抜粋し載せます。

はじめに

平成21年に開設した共同生活援助事業(グループホーム・ピアホーム)も平成27年4月から1室増やして全9室となり堅実な運営が来ています。この間、かなりの卒業生を地域での生活に送り出し、また、地域の受け入れが難しい障害者の取り組みも強めてきました。

今年1月、都加算制度が大きく変更され、基準単価が下がり加算で点数を増やす制度に変えられました。今年度はやや減収となる見込みであり、その対応をして行き

ます。グループホームは、同じく管理者の高齢化に直面していること、ピアホームⅡの老朽化などの問題があります。今後2年を目途に、建て替えを一つの区切りに次世代への引継ぎを計画して行きます。

リトルハウス開所から15年、ピアホームも10年を経て、板橋区における精神障害者の社会復帰施設として確実な地歩を築きつつあります。その責任を自覚し、今後とも関係機関、地域との連携を図りながら、次の世代に事業を繋げていけるよう計画して行きます。

3 31年度ピアホームの事業計画

1 引続き都加算見直しへの対応

障がい者区分の認定の見直し、各種加算について検討し、対応可能なものを実施していく。

2 第3者評価の実施

31年度前期に受託事業者の検討、後期に受審を目指す。

3 研修・勉強会

難しい利用者の受け入れが増えて来た。職場内研修を中心に職場外研修の受講を促がす。

4 ピアホームⅡの建て替え計画

31年度後半から土地探し(高島平・新高島平・西高島平、150平米)、32年度建築を目指す。

新薬情報

Kさんより治験薬ジプラシドンの質問がありましたので、お薬の特徴の掴み方と新薬・治験薬情報を載せます。

抗精神病薬はコントミンのような従来型とリスパダールのような非定型抗精神病薬に分けられます。非定型は抗セロトニン作用が副作用を緩和するので副作用(錐体外路系)が少ないのが特徴です。

非定型は薬理作用からSDAやMR TAに分けられ、MR TAは多様な作用から幅広い症状につかわれるのが特徴と思います。レキサルティ(SDAM—新しい分け方)が新参入しました。今後のお薬にはジプラシドンやルラシドン(SDA)が続いているようです。

今月の予定

<4月18日>Yさんケア会議